

定例会議の開催状況

- 1 日時 令和7年10月1日（水）午後1時35分～午後2時45分
- 2 出席者 櫻井委員長、和田委員、逸見委員、山田委員、斎藤委員
本部長、警務部長、生活安全部長、地域部長、刑事部長、交通部長、
警備部長、情報通信部長、警察学校長、首席監察官、組織犯罪対策本
部長
説明補助者
監察官室長、交通聴聞官、運転免許センターセンター長補佐
- 3 議題事項
 - (1) 運転免許取消処分に係る審査請求の審理経過報告及び裁決について
監察官室長から、運転免許取消処分に係る審査請求について、審理経過の報
告があり、裁決した。
 - (2) 運転免許関係の意見聴取等について
交通聴聞官から、運転免許取消対象事案22件について、事案内容及び意見聴
取等結果の説明があり、審議の結果、取消し22件の行政処分を決定した。
- 4 報告事項
 - (1) 「令和7年新潟県被害者支援連絡協議会定期総会」及び「被害者支援講演会」
の開催について
警務部長から、「令和7年新潟県被害者支援連絡協議会定期総会」及び「被
害者支援講演会」の開催について、資料に基づき報告があった。
 - (2) 令和7年8月末の犯罪情勢について
令和7年8月末の犯罪情勢について、刑事部長から刑法犯の概況について、
組織犯罪対策本部長から特殊詐欺、SNS型投資、ロマンス詐欺の概況につい
て、生活安全部長から特殊詐欺等に係る被害防止の取組について、資料に基づ
き報告があった。

委員から、「特殊詐欺の当初の接触ツールは、電話が62.3パーセントを占めて
いるが、この中で国際電話はどのくらいの割合を占めているのか。」旨の質問が
あり、生活安全部長から、「特に偽警察官による詐欺被害は、約3割が国際電話
によるものであり、特殊詐欺被害の抑止には国際電話利用休止が非常に効果的
である。」旨の説明があった。

委員から、「国際電話利用休止の申込みをされた4分の3の方が巡回連絡等の
家庭訪問によるものとのことであるが、そのような結果となったのは、各警察
署の日ごろからの地域との関係構築による成果であり、各警察署の活動が犯罪
抑止に効果を上げていると思う。」旨の発言があった。

委員から、「特殊詐欺等については、依然として高い認知件数、被害額で推移し、検挙者があっても組織末端の者とのことであるが、警察庁等において、組織中枢の者への捜査を今後強化するとの報道を見た。県警察でも人員を派遣するなどして、この取組を効果的な捜査につなげていただきたい。」旨の発言があった。

(3) J Aバンク新潟グループとの「特殊詐欺等撲滅に向けた情報の連携・協力に関する協定」締結式の実施について

組織犯罪対策本部長から、J Aバンク新潟グループとの「特殊詐欺等撲滅に向けた情報の連携・協力に関する協定」締結式の実施について、資料に基づき報告があった。

5 その他

(1) 長岡警察署協議会の陪席結果について

委員から、「9月19日、長岡警察署協議会に陪席したので報告する。会議では、自転車乗車時のヘルメット着用に関する意見や自転車乗りに対する取締りに関する質問があり、協議会委員の交通安全に対する関心の高さが感じられた。自転車乗りに対する指導については、先日、「サイクルポリス」を視察したことから、活動内容等を紹介した。また、会議終了後、協議会委員とともに広域緊急援助隊による災害警備訓練を視察した。普段目にする機会のないことであり、協議会委員に警察業務への理解を深めてもらう良い機会だったと思う。私からは、協議会委員に対し、委員であることを積極的にアピールして、周囲の人たちから警察に対する要望意見などを吸い上げ、会議の場で発表していただきたい。また、協議会のような場で意見を述べる機会の少ない子どもや高齢者などに目を向けて、幅広い世代の意見を集約して発表していただきたいとお願いした。」旨の報告があった。

(2) 妙高警察署協議会の陪席結果について

委員から、「9月26日、妙高警察署協議会に陪席したので報告する。会議では、協議会委員から詐欺電話対策や自転車のヘルメット着用の質問など、幅広い質問や意見が出されて活発に意見交換され、非常に有意義なものであった。また、会議後、県警察の山岳遭難救助隊員に指定されている妙高警察署員から活動状況の説明や装備品の紹介があり、協議会委員からは活発な質問がなされ、警察業務を知ってもらう良い機会だったと思う。今回の会議を通して、協議会委員と妙高警察署の垣根が低く、協議会が良い状態で運営されていると感じた。私からは、現在の良い協議会の状態を保ちながら、住民が安心して安全に暮らせるよう協力して推進していただきたいとお願いした。」旨の報告があった。